

報告事項ア

令和元年度「英語教育実施状況調査」公表結果及び英語教育施策の推進について

令和元年度「英語教育実施状況調査」結果及び英語教育施策の推進について、別紙のとおり報告します。

令和2年8月7日

鳥取県教育委員会教育長 山 本 仁 志

令和元年度「英語教育実施状況調査」の公表結果及び英語教育施策の推進について

令和2年8月7日

小 中 学 校 課

1 「英語教育実施状況調査」の目的

「英語教育実施状況調査」とは、文部科学省が、全国の公立小学校、中学校及び高等学校等における英語教育に係る具体的な施策の状況について調査し、今後の施策の検討に資するとともに各都道府県教育委員会における英語教育の充実や改善に役立てるために毎年実施するもの。

2 概要

(1) 英語担当教師並びに生徒の英語力の状況

調 査 項 目	R1達成度	全国順位	国の目標値	H30達成度	全国順位
R1英語担当教師の英語力の状況（高等学校）	92.7%	2位	75%	97.5%	1位
R1英語担当教師の英語力の状況（中学校）	35.0%	27位	50%	35.8%	20位
R1生徒の英語力の状況（高等学校）	42.7%	24位	50%	33.3%	41位
R1生徒の英語力の状況（中学校）	38.8%	29位	50%	37.1%	33位

(2) 「生徒の英語力の状況」（高等学校）について、上昇率が高い教育委員会の例及び取組例として、鳥取県が取り上げられた。

※別添資料（令和元年度「英語教育実施状況調査」の結果（概要）について シート24）

3 分析

(1) 英語担当教師の英語力の状況

- ・中学校では、授業中における教師の英語使用割合が上昇する等、技能統合型の授業改善のための取組が進められつつあるが、教師の英語力向上にはまだ課題がある。

(2) 生徒の英語力の状況

- ・中学生の英語力は、全国の上昇率に比して伸び悩んでいる。
- ・中学校では、新学習指導要領でも重視される言語活動の充実が図られつつあるが、目的に応じて必要な情報を把握し、情報を整理しながら考えなどを形成したり、知識・技能を活用して英語で表現したり伝え合ったりする力等に課題がある。
- ・高校生の英語力は、英語民間試験等の活用促進や技能統合型の授業実践の成果等もあり、伸びつつあるところ。

4 課題

(1) 指導と評価の一体化をとおして、生徒の意欲をさらに高めることが必要

- ・互いの考えや気持ちなどを伝え合う対話的な言語活動を行い、生徒が授業中により多く英語を使用するような授業改善を進めるとともに、CAN-DO リスト等を活用して技能別達成状況を適切に評価することをおして、生徒の英語学習の動機づけをさらに図る必要がある。

(2) 生徒が、4技能をバランスよく活用して取り組む実践的な言語活動量が不十分

- ・生徒が英語力を伸ばすには、ALT をより有効に活用するとともに、「発表・討論・交渉」等、生徒が基礎的な知識を活用し、複数の技能を統合して取り組む言語活動等を豊富に体験させることが重要である。

5 今後の英語教育施策

(1) 中学校

- ア 鳥取県が目指す「小学校及び中学校7年間の英語教育プラン」の周知及び実践
- イ 中学校英語教育における授業モデルの周知及び平準化
 - ・ 県指導主事による示範授業の実施
 - ・ 中教振（中英研）と協働し、指導法等に関するノウハウを全県に周知
- ウ CAN-DO リストを活用した評価の取組及びALT を有効に活用する体制づくりの推進
- エ 外部試験を活用した「英語力向上事業」（中学校）の実施及び好指導事例の全県普及
- オ 学校に県教育委員会指導主事等を派遣し、授業参観・協議等をとおして、課題克服に個別に対応

(2) 高等学校

- ア 「外部試験を活用した高校生英語力向上事業」の活用及び同事業を生かすための教員フォローアップ
- イ 英語教育重点校等のPDCA サイクルによる授業改善及び効果的な指導事例の全県普及
- ウ CAN-DO リストを活用した評価の取組及びALT を有効に活用する体制づくりの推進
- エ ICT を活用した生徒の英語力向上指導事例の創出